

Vol.132

院長 関の

Face to Face

2019年6月1日発行

この歳になると、やれ肺がんだ、大腸がんだと検診を勧める書類が届きます。被曝は嫌だなあ、痛いのも嫌だなあ、時間もないし…と自覚症状がなければ、そのうちそのうち、気付いたら結構な期間、検査らしい検査をしていないことに気が付きました。だからといって、毎年検査をしていたのに、見つけた時はステージ4だった：：などということも。

わずか一滴…血液や尿から癌発見



大きな声では言えませんが、もしかすると医原病（検査などの被曝により病気になること）かもしれないなどと思えば、更に検査から気持ちが悪くなります。こんなときに「わずか一滴の血液や尿から、早期がんが発見できる」という夢のようなニュースを聞きました。かぎを握るのはマイクロRNA（リボ核酸）という物質です。これは遺伝子の働きに

関わる物質で、体内に約二千六百種類あり、癌は早期から特定のマイクロRNAを分泌し、増殖したり、転移したりしています。どのマイクロRNAが増えているかを調べることで、癌の有無や種類を95%の精度で見できることを、国立癌センター研究所の落合孝広研究員が突き止めました。この検査は来年から実用化されるとのこと。このような患者の身体への負担が減る精度の高い検査が浸透すれば、これはとても画期的なことだと思えます。



関 修一（せきしゅういち）

健育会 東銀座整骨院・整体院・

鍼灸院 院長

代替医療の総合治療院としての確立を目指す。タイトルの「Face to Face」は「患者さん自身と向き合って患者さんの症状と闘う」とを願ってつけた

※毎月一日の発行です